

令和3年度 学校評価表 (中間)

三原市立沼田東小学校(校番12)

<p>a 学校教育目標</p>	<p>夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】自分を愛し、夢を語る児童の実現 【ビジョン】児童、教職員、保護者が「夢や目標に向かって、自ら伸びるとともに伸びる」という教育風土がある学校 <めざす学校像>「ともに伸びる」という教育風土のある学校 <めざす子ども像>「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子ども」 <めざす教職員像>「自分の姿を鏡とし、かわりきった結果としての児童の姿に自信と誇りが持てる教師」</p>
-----------------	------------------------------	------------------------------	--

評価計画				自己評価						改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	参考	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					現在の状況(昨年度3学期末・4月中旬)	h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
学力向上	【授業改善による学力定着】	<ul style="list-style-type: none"> ・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】 ・「めあて」が児童の主体性を引き出すものであり、「めあて」と「まとめ」がつながりのある授業改善【研究部】 ・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】 ・教材文等のことばに根拠を求める授業改善【研究部】 ・「聞く」ことを大切に、ねらいを達成するためのペアやグループによる学習のある授業改善【研究部】 ・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善【研究部】 ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】【生徒指導・特別支援教育部】 ・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善【研究部】 	<p>単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の平均値が指標に示す点を超える学級数</p> <p>【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)</p>	国語	8/12学級	12/12学級	9/12学級	74%	<p>単元末テストの結果は、理科は目標達成したが、国語・算数・社会は目標値には至らなかった。</p> <p>・国語では、学習の基礎基本となる言葉の習得(言葉のまじり、語彙力、言葉の意味)が不十分であった。また、正しく書き表す力の定着も不十分であった。</p> <p>・算数では、問題文や資料を正しく読み取る力に差があり、活用問題につまずきが多かった。低学年からの積み残しが個人差の原因であると考えられる。</p> <p>・社会では、資料の活用に課題が見られた。</p>	<p>教科書を大切に読んだ指導を行い、「読む」「書く」「聞く」「話す」活動をバランスよく仕組んだ授業を日々行っていく。</p> <p>・1時間の授業の中で、多くの問題数に取り組ませ、問題に慣れさせる。</p> <p>・漢字・計算などの基礎基本は、同じ問題を定着するまで何度も繰り返して行う。</p> <p>・社会、理科の教科書や資料をすらすら読めるよう、繰り返し音読させる。</p> <p>・個々の課題を的確につかみ、何学年のどの単元に置きの原因があるかを探り、そこに立ち返った手立てを講じていく。</p> <p>・ICT機器を活用し、個々の定着状況に応じた家庭学習に取り組ませ、内容、問題数などを工夫し、意欲的に取り組めるようにする。</p>	○	<p>・全体的に良好、算数をもう少し頑張ってもらいたい。</p> <p>・単元末テストを評価項目とすることは、全学年での確かな学力の定着に向けて取組む学校全体で進めていくために有効な評価項目である。加えて「全国学力・学習状況調査」の教員も評価項目と加味すると、全国や県と客観的に比較でき、その分析を受けて改善方針を考察することができ、より良い学校評価となる。</p> <p>・各項目において、昨年度3学期末から4月中旬の状況を数値として明らかにし、それを踏まえた上で取組を定めていくことは、高く評価される。</p> <p>・クローズドブックの利用で先生も児童もできる事が増え、より多くの情報・知識を取り込める環境ができていく。</p> <p>・新しいことを初めては、やることで増えて大変だと感じるが、今後教育環境の進歩発展を続けてほしい。</p>		
					算数	7/12学級	12/12学級	7/12学級	国75% 算58% 理100%						
社会	8/8学級	8/8学級	5/8学級	社63%											
理科	8/8学級	8/8学級	8/8学級												
豊かな心と親和性の高い集団	【規範意識の育成】	<p>教師が、児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー)を身に付けさせる</p>	<p>QUアンケートにおける学級生活満足群割合75%以上の学級数</p> <p>【評価時期】(5月下旬・11月下旬)</p>	<p>学級生活満足群に位置づく児童の割合75%以上の学級数</p>	71.0%	12/12学級	2/12学級	17%	<p>4月に行ったQUアンケートの結果、学級生活満足群においては、42%～86%と学級の差が見られる。</p> <p>40%台は1学級、50%台は1学級、60%台は3学級、70%台は6学級、80%台は1学級である。要支援群の児童は、学校全体で7名いる。学年が上がると、新たな学級集団の中で、友達との関わりや学習面において不安を抱えている児童がいたと考えられる。また、自己肯定感の低い児童が多いことも要因として考えられる。</p>	<p>・温かい教職員集団が、温かい学校、学級をつくることにつながる。「みんなで支え合い、みんな育てて」という意識のもと、全教職員で担任支援とともに児童に積極的に関わりたい。</p> <p>・要支援群の児童は、特に気に留めていく。</p> <p>・週2回の暮会10分間で児童交流を行い、対応策だけではなく、効果のあった手立てや取組を交流する。</p> <p>・個別面談を学期に1回は設け、一人一人の児童に寄り添った指導を行う。</p>	○	<p>・コロナで休校が続く、家庭内での生活になじんでいる人もいると思う。後期に期待する。</p> <p>・限られた時間の中で、難しい課題に取り組んでいた。先生方も児童の皆さんも目標達成のために、がんばりすぎないようにしてほしい。あせらず、少しずつ積み重ねていくことが結果につながると思う。</p>			
					95.1% あ102% い92.8% う93.4% え93.1% お97.5% か102%										
健やかな体	【授業改善による体力の向上】【感染症防止】	<p>教師が、児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する</p>	<p>児童質問紙よりアンケートによる調査「体育の授業は楽しい」</p> <p>「感染症防止のためにマスク着用、手洗い、3密を防ぐことをしている」</p> <p>【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>肯定的評価の割合</p>	95.8%	100%	95%	98.6%	<p>「体育の授業は楽しい」95.8%</p> <p>(参考)感染症についてはデータはない。</p> <p>「体育の授業」95%</p> <p>「感染症」100%</p>	<p>○体育の授業の充実を図る。</p> <p>・ワークシートなどを活用し、自分で目標を立てながら毎時間取り組むことができるようにすることで、児童自身が個々の目標に向かって意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>・自分の力に合わせた活動が自分で選択してできるよう、場の設定の工夫を行うことで、できる喜びを実感できる授業づくりに取り組む。</p> <p>・学年や学級間で実践交流をしていくことで、よりよい体育の授業を目指す。</p> <p>・ICT機器を活用し、撮影した動画やお手本となる映像を見たり、振り返りをクローズドブックで行ったりしながら、課題発見や関わり合うことに繋げていく体育の授業を行う。</p> <p>・感染症対策においては、学校で統一したきまりをもとに、なぜ対策をする必要があるのか児童に示したり、掲示物を活用したりしながら徹底できるように指導を進めていく。</p>	○	<p>・全体的に目標値に近いところまで達成できている。</p> <p>・コロナ禍の中で感染対策も生活の一部となっている感がある。これまでよりもさらに運動不足・体力不足につながっていると考えられる。家庭でも家族で取り組める運動等、提案していただけると助かる。</p>			
					58%	100%	62%	62%							
働き方改革	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、行事等の精選をし、児童に向き合う時間を確保する【教務部 総務部】	<p>○市の方針「勤務時間上限の目安時間」上限の目安時間及び特例的な扱い」に記載されている内容を達成する。上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。</p> <p>特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。</p> <p>【評価時期】(9月末・1月末)</p>	<p>勤務時間外の在校時間 全教職員年間360時間以内の割合</p>	58%	100%	62%	62%	<p>・4月から9月の間で、月45時間以内を達成できた延べ人数は、144人中89名であった。4月は、始業準備や児童理解等45時間以上の職員が18名、60時間以上も10名であったが、9月は45時間以上の職員が3名、60時間以上の職員も1名に減っている。</p> <p>・生徒指導事業の早目の解決、職員の意欲向上により、時間外勤務が減少してきている。</p>	<p>・朝7:00入校の職員は18:00に退校し、7:30入校の職員は18:30に退校する。一斉退校の日は17:30に施設する取組を継続する。</p> <p>・行事を計画する際には、内容を精選し、業務の改善を図る。</p> <p>・仕事を一人で抱えることのないよう複数体制にし、声をかけあったり、お願ひできたりする職場の雰囲気づくりをする。</p>	○	<p>・一人一人の業務も違い、難しい問題だと思う。ICTを使い、業務改善のシステム開発するなどの思い切った改善提案などよい。</p> <p>・朝・夕の時間外の業務を前提とするのではなく、あくまでも8:10～16:40の勤務時間に業務が集中的・効率的に行われることが求められており、勤務時間の中でその日の業務を終わらせることを常に意識させたり、組織としてそうした雰囲気醸成させたりしていくことを学校として取り組んでいく。よりよい教育には、先生方の健康が第一です。ご自愛ください。</p>				

イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。